

フェラーゼという酵素が働いて出す、熱をとまわらない「冷光」です。

まず、光を発する発光器は3種類。一つめはからだ全体にわたって腹側に多数ある小さな発光器（皮膚発光器）で、およそ1000個くらいあります。二つめは眼球の腹側にある丸い5個の発光器（眼発光器）です。皮膚の下にあり、白っぽい色をしています。これは大きいので透けてよくみえます。

三つめは最も腹側の第四腕の先端にある黒ゴマのような3つの発光器（腕発光器）です。その光は陸上のホタルとは比較にならないくらい強く、中でも腕発光器の光は青白いきらめきを発し、16センチ離れて文字が読めるともいわれています。



全身発光の様子

まず、光を発する発光器は3種類。一つめはからだ全体にわたって腹側に多数ある小さな発光器（皮膚発光器）で、およそ1000個くらいあります。二つめは眼球の腹側にある丸い5個の発光器（眼発光器）です。皮膚の下にあり、白っぽい色をしています。これは大きいので透けてよくみえます。



いつ光るの

●**光で守る**  
ホタルイカの腕発光器は刺激を与えると発光します。それは暗い海中で外敵に襲われたときなど、光を発することで相手を驚かせたり、目くらまし効果を狙った行動のひとつといわれています。

●**光でかくれる**  
ホタルイカは海中ではからだを水平にしているの、昼間は上から降ってくる太陽光に反応して腹側にある発光器



観光船に乗ってホタルイカ漁の神秘的な光を楽しんでもらう「ほたるいか海上観光」が4月9日から開かれ、今年も県内外から大勢の観光客が訪れました。（5月5日まで）

船上から実際にホタルイカが放つ青白い光や漁の様子が見れるのは珍しく、滑川市を代表する観光資源となっています。

私たちが誇れるホタルイカ。ホタルイカについて、もう一度確認してみませんか。

神秘の輝き

みんなのホタルイカ

ご存知ですか ホタルイカの不思議



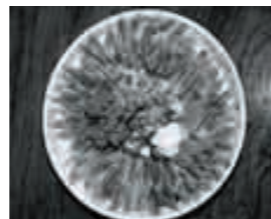
やっぱり定番は「桜煮」。酢味噌を付けて食べる人が多いでしょうか。



食べてもおいしい

●**光で会話する**  
同じ発光器をもつイカの仲間でも、それぞれの発光器の数や配列、種類の組み合わせなどは微妙に違います。ホタルイカの眼は青、水色、緑の3色の色を識別でき、同じ仲間同士やオスとメスとの間で合図を送ったり、集団で行動したりすることができると考えられています。

から光を出します。光が強すぎるとかえって目立ってしまし、光が弱いとシルエツトになり反対に敵に見つかりやすい。つまり、光を上手に調節して敵からわが身を守っていると考えられています。そして夜は光を全く出さずに暗い海にすっきり溶け込んでその身を守るといわれています。



きれいに並べられた刺身も食欲をそそります。足だけ用いたものは「竜宮そうめん」とも呼ばれています。



近年は、パスタやサラダに混ぜたり、フライにしたりして、いろんな食べ方が工夫されています。



どうして滑川に集まってくるの

日中は沖合の200〜400メートルという深海にすみ、夜間に海面近く、しかも陸近くまで上がってくるのは産卵や餌生物を追うためといわれています。毎年3〜5月ごろを中心



ホタルイカって

現在、世界の海にはおよそ32科440種内外のイカが生息しています。ツツイカ類ホタルイカモドキ科に属するホタルイカは、日本全域に生息しています。ホタルイカは大人になってもせいぜい胴長6〜7センチ。そのかわいらしい姿と青白い光を放って群集するさまは実に神秘的ですが、その生態についてはまだ謎が多く、神秘のベールに包まれ、研究の対象となっています。



なぜ光るの

ホタルイカの特徴といえば、その名のとおり全身から光を発すること。その発光は陸上のホタルと同じくルシフェリンという物質にルシ



ホタルイカの群れが見られるのは、富山湾のすり鉢のような地形と海流の関係（すり鉢状の底から上に向かって流れる湧昇流）で岸近くまで押されるためといわれています。その群遊海面は国の天然記念物に指定されています。

ホタルイカの寿命は約1年。卵がふ化するまでに必要な時間は富山湾の場合で約2週間程度。その後成長を続け、翌年2月ごろには交接シーズンを迎え、4〜5月ごろに産卵し、その一生を終えると考えられています。

ミュージアム館内ガイドツアー

～ お楽しみ体験と見学 ～

- 生きたホタルイカをお客さん自身がさわって、光らせる。
- 数千尾が泳いでいるホタルイカの飼育現場の見学
- ホタルイカの全身発光がみられます。これは必見です。

とき 5月7日(出)

18:00～19:00 (集合時間 17:50)

入館料 大人 800円

小人 400円 (3歳～中学生)

定員 30人

申込方法 電話、FAX、メールにて事前予約が必要です。

【申込み・問合せ先】

ほたるいかミュージアム

☎ 476-9300 FAX 476-9301

e-mail info@hotaruikamuseum.com



4月9日、16日に行われたガイドツアーでは、通常、ご来館のお客さんにはお見せしていないホタルイカの発光をゆっくり楽しんでいただきました。

子どもたちは、目の前で青白く輝く光に歓声をあげていました。